

ウーム。続けるべきか、中止すべきか。それが問題である。

68歳のSさん。目覚めたら、左手足に力はいらない。慌ててトイレに行こうとして転んだ。頭を壁にぶつけたが、意識はなくなっていない。手足も、30、40分で普通になったという。

約4時間後に、頭のMRI（磁気共鳴画像）の検査をした。が、年齢相応の動脈硬化がみられるだけだ。転倒の原因となった手足の麻痺は、「一過性脳虚血発作」によるものか。硬くなった動脈壁に血栓ができ、血流が悪くなって麻痺が起きた。幸いにも、血栓は溶けて流れ、血流も戻った。で、手足も元通りに動くようになったのだらう。

でも、油断はできない。一過性脳虚血発作は、90日以内に15〜20%が、しかもその半分は2日以内に脳梗塞になってしまうという。予防のために、血液サラサラの薬の一種である抗血小板剤を使うことになった。

さて、話はこれからである。発症3週間後に、無症状だがMRIを再検査した。

と、と。頭の中に、厚さ1センチくらいは

ある三日月状の血腫ができているではないか。頭をぶつけたことによる「慢性硬膜下血腫」である。それが、抗血小板剤を使ったことと関係あるかどうかは分からない。が、薬を続ければ、血腫が大きくなる危険性はある。だが、薬を中止すれば、今度は、脳梗塞の危険性が増すかもしれないのだ。困った。どうしよう？ 医者の一存で決めかねる。まずは、Sさんと相談しなければ。インフォームド・コンセント（説明と同意）は、今の医者の常識である。

コロナ禍で、足腰が弱くなり転倒する人が増えている。高齢化社会で、血液サラサラの薬を服用している人も増えている。硬膜下血腫の頻度も増えているという。悩ましい患者さんも増えるということだ。ウーム。

（石黒修三いいしへろクリニック・脳神経

外科医…12/26 北國新聞掲載）